

虚子記念文学館投句特選句・令和四年十月

稲畑廣太郎 選

遙か来て汀子師偲ぶ館の秋

新潟 安原 葉

これよりも師を支へんと秋高し

神奈川 進藤剛至

何も彼も句の中にあり秋の声

神奈川 平野孤舟

回顧展出て現し世の萩の道

千葉 大慈弥爽子

たそがれて青たたみゆく秋の空

兵庫 山口弘子

昨夜献盃今宵乾盃今年酒

大阪 須知香代子

池の面に光の粒や松手入

兵庫 塚本武州

小鳥来る凶鑑ひもとくテラス席

兵庫 武田奈々

秋深し翁の面に聞く囃子

兵庫 太平楽太郎
(青少年)

天空の青松かさの汀子邸

岡山 小幡恒雄

入選句・令和四年十月

吉野山偲びし桜紅葉して	三重	永井二紗子	十月の聞き分ける水音波の音	兵庫	平田 恵
夢殿の八角すぱっと秋の空	大阪	大橋明子	哀しみも吸ひこまれゆく秋の空	兵庫	金田八江子
秋声や師の在さぬ庭ほの暗く	兵庫	長安悦子	椋鳥に乗つ取られたる一樹かな	兵庫	宮本露子
風を呼び風と戯る萩真白	大阪	吉村美穂子	秋晴を極め俳磚あをきこと	岡山	石井宏幸
天高しちんまりとかやぶきの里	大阪	若林友子	菊月や動き始めし旅心	兵庫	深尾真理子
虚子館の庭に水澄み俳徒群れ	大阪	山下幸典	純白といふも恐ろし毒茸	大阪	多田羅紀子
入院す友との約束秋時雨	大阪	森本節子	ゆつくりと蒸らす珈琲小鳥来る	兵庫	武田優子
飾られて和む色紙や秋の声	大阪	立入宮子	小鳥来る小さき恋の始まりに	徳島	奥村 里
初紅葉館の桂の影くぐる	大阪	谷本房子	声あげて指差す空に翺雲	岐阜	花川和久
水澄める地震句碑風と光澄む	岡山	奥山登志行	焼米を友分けくれる駒ヶ岳	香川	葛原由起
秋天へ棒高跳びの人消ゆる	三重	池本準一	我が町へ千キロ渡り秋の蝶	兵庫	涌羅由美
芦屋川流れ途絶えて草の花	石川	村上秀吾	校庭のラジオ体操爽やかに	大阪	西尾浩子
露けしや師の好きな蝦夷在さぬとは	兵庫	森岡喜恵子	小鳥来る庭掃く父の影法師	兵庫	中村恵美
澄む水に五列遊泳鰭光る	岡山	田口壽枝	少女らの絵文字丸文字小鳥来る	兵庫	笹尾玲花
見習ひは茶髪碧眼松手入	兵庫	槌橋眞美	大空を元気に変へてゆく小鳥	兵庫	河野ひろみ
水澄むや川底の影動きをり	三重	松村咲子	十月の空爽快でありにけり	兵庫	奥田好子
自転車をもとして行く秋日和	大阪	八木 徹	椽黄葉空の高さを失はず	兵庫	岸川佐江
秋高し比良も比叡も肩ならべ	石川	辰巳昌彦	ねこじやらしだけを揺らしてをりし風	京都	山崎貴子
交差点縦横無尽な群蜻蛉	奈良	河村久美子	四羽来て皆こちら向く小鳥かな	兵庫	辻 桂湖
汀子師の亡き庭しづめ水澄めり	兵庫	黒田千賀子	過去偲び過去なつかしむ館の秋	大阪	林 曜子
十月へ踏み出す芦屋快晴に	兵庫	内田泰代	秋晴や部屋の中まで日の匂	石川	辰巳葉流
秋思着て文学館の扉押す	兵庫	西村みどり	梯子より夫呼ぶ声や松手入	兵庫	岩水ひとみ
鬼皮も渋皮も手間栗ごはん	兵庫	小柴智子	秋の日や長き眠りの師の庭へ	兵庫	辻田あづき
木犀のあはくふふみて香り初む	兵庫	高野さち	残菊や頑張らなくていいんだよ	兵庫	高橋純子
秋天にリュック一つの遠出かな	大阪	杉山千恵子	手話のごと只黙々と松手入	兵庫	小杉伸一路
忙し日日語る書齋の秋灯	兵庫	山之口倫子	小さき嘘色に出にけり彼岸花	兵庫	永沢達明
海までの直線道路天高し	東京	荒川ともゑ	詩心を撫でてゆきけり秋の風	兵庫	池田雅かず
			六甲を背負ひ着く館秋高し	兵庫	玉手のり子

かぶりつく若さの歯音りんごの香	兵庫	中井陽子	どこへ行くにも秋晴の影を曳き	鳥取	棕 誠一朗
俳磚へ光投げかけ彼岸花	兵庫	吉村玲子	廃線路行きて野山の錦かな	兵庫	小川由美子
先生の書齋を覗く小鳥かな	兵庫	藤井啓子	シデ棒の立ちて播磨は秋祭	兵庫	中野和幸
瓢の実の同じものなき面構へ	京都	前 悦子	飲み込めぬ赤蛙食ふ穴まどひ	兵庫	岡野明子
お祝ひの大秋晴の日となりぬ	兵庫	池田文子	山径にふつと潮の香椿の実	兵庫	大西乃子
絨毯のあおい海原波の音	兵庫	大島雄一	収穫をみとどけ畦に寝る案山子	兵庫	荻原皓子
一献は大吟醸や菊日和	大阪	河辺さち子	拝殿の屋根白々と十三夜	兵庫	福雄みつ子
梨かじる汁いつぱいの味覚かな	兵庫	岡本泰志	八の字の眉の翁や松手入	兵庫	楠木朋之
鷹渡る十字架背負ふ形して	愛知	小野 薫	晩学に余念なき日々鳥渡る	兵庫	島崎すずらん
山越えて虚子の心を覗く秋	兵庫	深田 葵	芦屋浜寄せて返すや秋の風	兵庫	穴山俊郎
手袋はなくてもいいと手をつなぐ	兵庫	深田 鼓	すくと伸ぶ桂の黄葉芳しき	兵庫	川村ひろみ
秋澄めりピカソの青が並ぶ部屋	兵庫	江川由美	朝露や星のしづくの名残とも	京都	西村やすし
秋天へ真直すぐに松伸びし庭	静岡	小泉恙太	軋みつつ閉づる門扉や夕月夜	兵庫	上岡あきら
白萩の枝垂れに汀子師の姿	神奈川	後藤 慶	ほらここと妻の呼ぶ声金木犀	奈良	豚々舎休庵
師の庭に面影偲ぶ秋の風	東京	篠崎千春	母と見たペガサス翔る星月夜	兵庫	伊集院秀樹
長き夜おしやれな栞挿みあり	奈良	堀ノ内和夫	ライバルに似合はぬ墓や破れ芭蕉	千葉	太田俊明
皮は灼け原爆忌かな尊厳死	三重	水越晴子	使徒集ふ師去りし庭の新松子	神奈川	金子三奈乃
一箱の林檎のいのち光りけり	兵庫	山岸正子	草相撲上ぐる軍配花薄	東京	宮村土々
山法師百の実落とす秋一日	東京	櫻庭 寛	汀子の書じつくり挿す秋日和	東京	武井まある
師を偲ぶ庭に佇み秋の蚊に	大阪	田邊育子	山百合を光背として虚子の家	埼玉	土井洋子
蒼天を奪ふ桂のうす黄葉	大阪	石橋玲子	野の花の寄る辺なき身ぞ芦屋川	兵庫	福田光博
旅の夜は故郷語る秋灯下	奈良	芳林淳子	ピーラーに剥いて林檎の瑞々し	滋賀	近江堇花
百歳の祖母の爪切る吾子さやか	兵庫	ほりもとちか	深秋のひとり静かな夜の瀬音	兵庫	足立朱麻
猪垣を結ふ但馬路の村絵出	兵庫	山崎渺美	人形となりて机上の木の実かな	和歌山	中島紀生
艶やかなりんごと共に一筆箋	兵庫	道中義臣	鉦太鼓芦屋の秋のいよ高し	兵庫	阿曾宏之
白萩に汀子師偲ぶ日となりし	兵庫	入谷千恵子	献上の新酒たふんと壺に鳴る	兵庫	キートスばんじょうし
木犀や心も満ちる甘き宵	神奈川	小林 心	山会の結果に寒さ厳しき日	京都	杉森大介
秋高し高層ビルも地平線	兵庫	高市敦之	主なき庭を守りて小鳥来る	兵庫	田村恵津子
木犀の香にしづもりぬ館の門	鳥取	棕 則子	島裏へ抜ける石段水引草	神奈川	小堀公美子